

機関番号：32682
 研究種目：研究活動スタート支援
 研究期間：2009～2010
 課題番号：21820048
 研究課題名（和文） 紙素材としての古文書・古典籍の機能論的研究―「史料学」確立のための基礎作業―
 研究課題名（英文） Fundamental works to establish the functional studies of historical document studies of paper materials on ancient documents and classical publication

研究代表者
 渡辺 滋 (WATANABE SHIGERU)
 明治大学・研究・知財戦略機構・共同研究員
 研究者番号：30552731

研究成果の概要（和文）：日本前近代の古文書・古典籍を対象として、その表面に記された文字情報だけでなく、それを記した紙素材の物理的特性などまで視野に入れた複眼的な調査を行い、従来にない立体的な分析成果を提示することに成功した。

研究成果の概要（英文）：Successfully present a remarkable assessment of attempt to synthesize not only whole situation on the view of characteristic information but also the physical properties of the paper materials described on its surfaces of early age modern paper materials and publications.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,040,000	312,000	1,352,000
2010年度	970,000	291,000	1,261,000
総計	2,010,000	603,000	2,613,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：和紙・古文書・古典籍・機能論・史料学

1. 研究開始当初の背景

素材としての紙の特性と、記された文字情報とは密接に関連しており、両者は一体の要素である。ところが現状では、後者のうちでも文字情報のデジタルデータ化に眼目が置かれ、前者の要素は軽視されている。つまり、本来であれば検討の根底となるべき史料の物理特性の調査や、それに基づく考察そのものが、十分に行われていない。

2. 研究の目的

本研究は、新分野「史料学」を確立するため、史料の機能・性格を、そこに記された文字情報だけでなく、書写材「紙」の物理的特性に関する解析成果もふまえ、明確にすることを目的とする。本研究の遂行によって、上

記の状況を改善することで、文字情報を主要な検討対象とする従来の研究に比べ、史料の「機能」がより明確化できるだろう。

3. 研究の方法

以上の課題を遂行するにあたり、最も重視したのは、従来の研究において圧倒的に不足していた、前近代の紙資料現物を、厳密に調査・検討する作業である。特に古代・中世の史料に関しては、現存数が少ないこともあり、調査自体が難航されることも予想されたが、各地における史料所蔵機関のご厚意もあって、予想以上の成果を得ることができた。

4. 研究成果

現物調査を行った主な機関・史料名などは、下記の通りである。

- ・2011年3月 八木書店

担当者の特厚意で、『古紙聚芳』ほか、所蔵の貴重な古文書・古典籍の断簡の類を調査させていただいた。

- ・2011年3月 九州国立博物館

下記の館蔵資料などを調査し、各種データの採取・分析に成功した。

大宰府牒案 斉衡二年七月十一日付・大宰府牒案 弘仁十一年三月四日付・晋書列伝卷第五十一(重文)・円仁入唐求法目錄・唐詩殘篇(重文)・和漢朗詠集 卷上・伊勢集 石山切・古今和歌集 亀山切(重文)・栄花物語(国宝)

- ・2011年2月 国立歴史民俗博物館

下記の館蔵資料などを調査し、各種データの採取・分析に成功した。

H-67 造仏所作物帳・H-70 備前国津高郡収税解 H-72 東大寺奴婢帳・H-97 愚昧記(重文)・H-133 源氏物語(重文)・H-140 古今和歌集・H-600-31 河海抄・H743-296 顕広王記(重文)・H743-444-2 九条殿遺誠・H743-456 春記(重文)・H1555 中右記部類(重文)

- ・2010年9月 京都御所ほか
古文書の作成・利用実態の調査

- ・2010年1月 宍倉ペーパーラボ

1月30日(土)・31日(日)の二日間にわたり、宍倉ペーパー・ラボ(静岡県沼津市)において、和紙制作に関する調査・実習を行った。今回は、和紙の原料となる楮の刈り取り、それを蒸して皮を剥ぐところからはじまり、最終段階の紙漉に至るまでの、ほぼすべての工程を行った。最後の紙漉の段階に限っても、楮・三桎などの各種の繊維を、様々な種類の漉き簀で漉き比べるという、かなり意欲的な作業を行った。

- ・2009年11月 お茶の水図書館

下記の館蔵資料などを調査し、各種データの採取・分析に成功した。

長保二年十一月二十五日 東大寺燈油納所返抄・寛弘九年六月八日 大和国司解案・長久二年十一月 東大寺返抄案・天喜四年閏三月 東大寺政所下文案・康平八年二月十九日 僧慶寿田地売券・治暦四年十一月二十五日 坂上しかあつる田地処分状・延久三年七月二十七日 僧慶秀田地売券・承保二年九月廿六日 某返抄断簡・永保三年十二月廿日 僧長寂田地売券・康和四年十二月二十八日 東大寺政所切符・長治元年六月三十日 東大寺司料米切符・天仁三年三月二日 紀閉丸公驗紛失状天永二年七月十三日 僧慶実開発田立券文・永久三年四月二十三日 僧浄能田地讓状・元永二年十二月十三日 藤原清末田地売券・保安四年

八月二十三日 藤井清末田地売券・大治元年七月九日 僧暹快文書請取状・保延二年十一月二日 僧念慶田地米請取状・久安五年三月十三日 東大寺花嚴会祿物送状・仁平元年二月十二日 東大寺花嚴会祿物送状・保元三年九月日 大法師良忠注記・平治元年六月 大和国小東莊名名坪付・応保二年二月十三日 紀国末所領売券・長寛三年三月三日 僧楊勢田地米請取状・永万二年三月二日 僧仁嚴田地売券・仁安二年十二月 施薬院牒・嘉応三年正月十八日 僧義助讓状・安元二年十二月 佐伯友貞文書紛失状・治承四年十一月十五日 伊賀国矢川条文書紛失状・寿永元年十一月九日 広海忠則田地処分状

- ・2009年11月 金沢文庫

下記の館蔵資料などを調査し、各種データの採取・分析に成功した。

文選集注(国宝)・円覚経・宋版大蔵経・同和版・文永十年正月二七日 六波羅探題御教書・正和五年七月? 金沢貞顕書状・嘉暦二年閏九月六日 心性書状

- ・2009年9月 国立歴史民俗博物館

下記の館蔵資料などを調査し、各種データの採取・分析に成功した。

H-63-332 年中行事鈔・H-63-563 律(重文)・H-133 源氏物語 六帖(重文)・H-134 源氏物語拔書(重文)・H-139 万葉集(重文)・H-148 万葉集考・H-172-3 宋版史記(国宝)・H-743-231 令集解・H-743-460 白氏文集(重文)・H-1441 山城国葛野郡班田図・H-1517 无下雑物納帳・H-1587 正倉院宝庫外文書・H-1762 小野宮年中行事裏書

このうち国立歴史民俗博物館における調査は、宍倉佐敏(紙繊維の専門家)氏との共同調査であり、その成果はすでに

・「国立歴史民俗博物館所蔵の古代史料に関する書誌的検討」(渡辺2009)

・「国立歴史民俗博物館蔵 古文書・古典籍料紙の調査」(宍倉2010)

などとして公表した。また、他機関における調査の成果も含め、以上のエッセンスを『古典籍・古文書料紙事典』(2011)として刊行予定である。

このほか、黒川文庫(明治大学)で二年間にわたり、毎週火曜日に調査を進め、未調査分の全史料調査を完遂した。その成果は、今年度中に雑誌に公表する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

①渡辺滋、受領像の形成過程—藤原陳忠の事例を中心として—、日本古代学、3号、査読有、2011年3月、65～96頁

②宍倉佐敏、国立歴史民俗博物館蔵 古文

書・古典籍料紙の調査、国立歴史民俗博物館研究報告、160号、査読有、2010年12月、229～267頁

③渡辺滋、大会報告外部批判 遠藤報告を聞いて、日本史研究、572号、査読有、2010年4月、34～38頁

④石坂佳美・新村明子・渡辺滋、明治大学「黒川文庫」本の調査・検討—古代史料を中心として—、日本古代学、2号、査読有、2010年3月、43～111頁

⑤渡辺滋、国立歴史民俗博物館所蔵の古代史料に関する書誌的検討、国立歴史民俗博物館研究報告、153号、査読有、2009年12月、169～394頁

〔学会発表〕(計4件)

①渡辺滋、平安期における国衙—結節点としての地方「都市」—、国際学術研究会「交響する古代」(2010年11月6日)、明治大学(東京)

②渡辺滋、受領像の形成過程—藤原陳忠の事例を中心として—、早稲田古代史研究会(2010年7月17日)、早稲田大学(東京)

③渡辺滋、中国口語対日本古代社会的影響—以法制史料所見実例を中心—、学術発表会(2009年12月4日)、中国社会科学院歴史研究所(北京)

④渡辺滋、古代法律文献〈令集解〉中所載唐代俗語、特別講演会(2009年12月3日)、首都師範大学(北京)

〔図書〕(計3件)

① 宍倉佐敏・渡辺滋ほか、古典籍・古文書料紙事典、八木書店、2011年7月、470頁

編集協力者として、このうちの大型目3つ

- ・「文献から見た和紙の歴史」
- ・「古典籍に見える墨映」
- ・「専用機器による分析方法」

また、小項目32つ

律・寛平遺誠・九条殿遺誠・西宮記・延喜式・別聚符宣抄・北山抄・春記・扶桑略記・愚昧記・中右記部類・顕広王記・阿不幾乃山陵記・醍醐雜事記〔異本〕・源氏物語・万葉集(以上、第二部 第一章)

正倉院流出文書・東大寺奴婢帳・山城国葛野郡班田図・栄山寺文書・平宗盛書状・大江某奉書・後醍醐天皇綸旨(以上、第二部 第二章)

史記〔宋版〕・白氏文集・周易・百万塔陀羅尼・成唯識論了義灯〔版本〕・妙法蓮華經(以上、第二部 第三章)

の執筆を担当した(頁数合計で、100頁相当の分量)。

②吉村武彦・渡辺滋ほか、交響する古代、東京堂出版、2011年3月、463頁

このうち、「平安期における国衙—結節点としての地方「都市」—」(275～294頁)を担当。

③渡辺滋、古代・中世の情報伝達—文字と音声・記憶の機能論—、八木書店、2010年10月、447頁

第一章 「文書主義」の導入と情報処理

第一節 古代中国における文字利用

第二節 古代日本への文書主義の導入

第三節 行政処理への黙読の採用

第四節 黙読と音読の併用

〔コラム1〕

第二章 社会における文字の役割

第一節 書式と機能

第二節 帳簿に「文字化される情報」と「されない情報」

第三節 帳簿と音声・記憶

第四節 「読み合わせ」するということ

第五節 文書の社会的な役割

第六節 文書の作成と披露

第七節 紛失状の作成

第八節 文書と記憶

第九節 古代社会における文書

〔コラム2〕

第三章 情報伝達における「文字」と「記憶」

第一節 使者の原初形態

第二節 手紙(私文書)の場合

第三節 文書(公文書)の場合

第四節 文字化された情報の特質

第五節 遠距離への情報伝達

第六節 遠距離への情報伝達と記憶

第七節 記憶から文字へ

〔コラム3〕

第四章 日本古代・中世における文字利用

第一節 日本社会への文字の導入

第二節 文字利用の一形態としての代筆

第三節 生きた人間を介した情報伝達

第四節 平安期における文字利用の本格

化

第五節 偽文書の作成

第六節 文字と記憶

第七節 裁判に見る文字と記憶

〔コラム4〕

終章 前近代社会における文字利用

第一節 文字登場の前史

第二節 文字の創成

第三節 文字の限定的な利用

第四節 古代ギリシャ・ローマにおける文

字利用

第五節 文書主義の変質

第六節 中世西欧における記憶と文字

第七節 中世的文書主義とその終焉

第八節 遠距離への情報伝達方法

第九節 使者と口上

第十節 使用者の記憶

[コラム5]

参考文献

索引

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡辺 滋 (WATANABE SHIGERU)

明治大学・研究・知財戦略機構・共同研究
員

研究者番号：30552731

(2) 研究協力者

宍倉 佐敏 (SHISHIKURA SATOSHI)

宍倉ペーパーラボ・代表